法律アドバイザーとして

大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
創生科学研究部門　公共政策科学分野　准教授
清水　真人（しみず　まさと）

徳島大学に赴任してから、これまで約2年半、法律アドバイザーとして職務に従事してきました。新任の教員として新しい研究環境への適応や講義の準備等にも追われつつ、学生相談室の一員として他の先生方やスタッフの方と協力して学生・教職員のサポートに少しは貢献できたのではないかと実感しております。これからも学生・教職員の皆さんの良き相談相手として活動していけるよう日々精進していきたいと考えています。

法律アドバイザーの職務は、学生による法律相談から学内の教職員によるセクハラ・パワハラの事情聴取・調査に至るまで多岐に亘ります。中には法律相談とは直接関係のない進路相談で訪ねてくる学生もいます。これら多様な相談に対して法律家として如何に対処し問題を解決していくかが私たち法律アドバイザーの腕の見せどころとなります。

私たち法律家が問題を解決する際には、法律の知識を縦横無尽に用いて一刀両断に結論を出すことは決してありません。まずは、相手の話をしっかり聞いて、事実の概要および問題の所在を明らかにしていきます。そして、相談者と話し合いながら、問題の解決の方向を探っていくことになります。このように法律相談に際してはコミュニケーション能力が非常に重要となります。

他方、法律問題に取り組むためには法律家としての専門性も絶えず磨き続けなければなりません。世の中の変化が激しい中、法制度も絶えず変化しており、法制度を支える基礎理論も大きく変容しています。最新の法改正や判例をしっかり把握しつつ、その背後にある基礎理論や学説の変化にも目を向けながら専門分野の勉強を続けています。勉強の方法としては、自らの研究活動を通じて文献資料にあたったり、各種の研究会に参加して他の先生方と議論を行うなどしています。

私が学生のときも、先生方をはじめ多くの方々の支えがあったおかげで充実した学生生活を送ることができました。大学教員となった今、今度は私がその恩返しをする番です。徳島大学での学生生活がそれぞれの学生にとって貴重な経験となりその後の人生に大きくプラスとなるよう、また教職員の皆様が困った際に少しでも役に立てるよう、今後も活動を続けていきたいと思います。

地域貢献

子どもたちの理科離れに対する挑戦

科学体験フェスティバルin徳島の効果

大学院ソシオテクノサイエンス研究部
先進物質材料部門　機能性材料大講座　教授
杉山　茂（すぎやま　しげる）

子どもたちの理科離れを防ぐため、平成9年度から「科学体験フェスティバルin徳島」を開催し、昨年8月6、7日に15回目の大会を実施しました。理科離れ防止という目的に賛同した徳島県内の小・中・高等学校、高専、大学、企業、官公庁が出展した52テーマを実施し、8、500人の子どもたちと保護者の皆さんが参加して、〝さわって、つくって、楽しい科学〟を体験して頂きました。

本フェスティバルの参加者にアンケートを実施しています。毎回子どもたちの8割以上は〝面白かった〟、また保護者の皆さんの9割以上が〝役にたった〟と満足してくれます。この催し物が実際に理系離れ防止に役立っているかを検証するため、平成21年度から工学部新入生のほぼ全員に対してアンケート調査をしています。年度によらず徳島県出身の新入学生の20％程度は本フェスティバルを体験しています。さらに毎年数名は本フェスティバルへの参加が、直接工学部への入学動機になったと答えてくれ、特に女子学生の割合が高くなっています。このことから、県外の理系大学に進学した徳島県出身の学生にまで大きな影響を与えているといえ、徳島県内の理科離れ防止に寄与していることが分かりました。

このような効果検証により、平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰　科学技術賞　理解増進部門を受賞し、全国的にも類を見ない理系普及活動として認知されるようになっています。

開会式でのテープカット

特別企画：ロボットワールド"トコトコくんをつくろう"

徳島県立城南高等学校の出展ブース

読者の言葉

1：活字を大きく、行間もゆったりして下さい。個人的にはもう少し大きな字で読みたいです。（スペースの都合だとは思いますが・・・）
すごくデザインも気に入っています。読む量もこれくらいが私には丁度いいです。

【回答】

ご意見どうもありがとうございます。『とく talk』は大学の広報誌という性格上、全ての学部や組織を公平に取り上げる必要があります。従って、各々の文章量も多く、活字の大きさも現状ではかなり細かいものになっていますが、これをただちに変えるのは難しい事情もあります。今後「大きめの活字を」という要望が多いようでしたら、改善も検討したいと考えております。

2：No.145（2011秋号）の特集（徳島大学の国際化を目指して）において、留学についてわかりやすく記述してあり、良かった。
海外留学をする上に於いて何回生が出来て、短期長期的にどのくらいの期間可能か費用はどのくらいかかって、またその国へ行く時の必要な物（時期、服装等）等々について具体的に知りたいです。

【回答】

海外留学は、幅広い知識と見聞を広めるために大切な経験です。徳島大学としても、海外の協力校等を含めた様々な情報を提供しております。前号で特集として、留学支援の取り組みを紹介しました。ですが、学生の考える留学のあり方が多様化しており、限られたページ数では具体的な内容までは紹介できなかったかと思います。前号で紹介された組織や取組みに興味を持たれた場合は、国際課事務室（共通教育4号館1階）に直接相談されると良いかと思います。また、最近では書籍やインターネット等の情報が数多くあるので、そのようなものを参考にされてみればいかがでしょうか。